

平成30年度事業報告

1 事業概要

平成30年度末の当センターの会員数は、1年間で47人が入会され41人が退会されましたので、結果、6人が増え332人となりました。これは、ここ数年の動向と同じで、ほぼ横ばいの状態が続いています。

配分金については、派遣事業では伸びていますが、請負事業で少し落ち込みました。その結果、11,323円という僅かな減少となりました。

請負事業が落ち込んだ要因の一つは、労働者の雇用延長により60代前半の加入者が減っていることが考えられます。これを裏付けるように、会員の平均年齢は昨年の73.7歳より0.4歳上昇し、74.1歳となっており、加齢や病気・介護等の事由による退会も無くならない状況です。

こうした中、会員の増強を推進するには、現状の地域ニーズにあった新たな事業展開が必要となってきます。また、生涯現役社会を実現するため、高齢者の「居場所づくり」・「出番づくり」について、シルバー人材センターの事業等の在り方を見直しする時期でもあります。

そうしたことで、現業務等の在り方や安全の徹底を再考しつつ、新たな事業展開の調査・研究をするため、理事を中心とする委員会制度を年度当初から検討し、11月30日の理事会で安全適正就業委員会、事業普及委員会、会報宣伝委員会、総務委員会を設置し、それぞれ所管する業務の重点項目を中心に事業を実施しました。

2 実施した主な事業

○安全適正就業委員会（11月30日、2月15日）

（1）安全・適正就業の徹底

①安全就業の徹底

「安全はすべてに優先する」を念頭に、ヘルメットや安全帯などの安全装備の使用を徹底するとともに、新たな安全対策、事故防止器具の啓発に努めました。また、事故発生後の再発防止策の周知、安全パトロール（12月14日・3月5日実施）などの安全就業に取り組みました。

②適正就業の推進

多くの会員が公平な就業機会が得られるようローテーション化を図りワークシェアリングを進めるとともに、適正就業ガイドラインに沿った請負・派遣事業の説明や有料職業紹介事業も考慮に入れた適正就業の確保に努めました。

(2) 交通安全の推進

高齢者による交通事故が増加している中、個人々の交通安全に対する意識が高揚するよう研修（36人参加）を実施しました。

(3) 健康・衛生管理の徹底

会員の就業中の熱中症対策として、新たに熱中症見舞金制度に加入しました。また、インフルエンザ対策、健康診断の受診など、会員自身の健康・衛生管理に対する意識啓発に努めました。

○事業普及委員会（11月30日、1月21日、3月19日）

(1) 就業開拓の推進

①就業機会の拡大

会員の就業機会の拡大の観点から、愛知県シルバー人材センター連合会と連携して行う高齢者活躍人材育成事業に取り組み、技能講習として、「学童保育従事者講習」と「施設管理人講習」に取り組みました。

②普及啓発活動の推進

シルバー事業の理念や事業内容等について、市広報および会員によるチラシの臨戸配付に加え、シルバーの日の清掃ボランティア（雨天中止）を計画するなど、広く市民に高齢者の生きがいと地域ニーズの融合に取り組みました。

③福祉・家事援助サービス事業の推進

平成29年度から江南市が実施しました、できる限り住み慣れた地元で暮らせるようにする「介護予防・日常生活支援総合事業」に、関係機関とも情報共有を図りながら、この総合事業の中の家事援助サービス事業に引き続き取り組みました。

(2) 独自事業の推進

①襖張り替え等独自事業

会員が独自に創出しました、襖・障子・網戸の張り替え（就業延人数：527人）に取り組みました。

②新たな独自事業の開拓

会員の就労機会を目指し、新たな独自事業を開拓するため、先進地視察（米原市・敦賀市）を実施しました。

○会報宣伝委員会（11月30日、1月21日）

(1) 会報編集の実施

会員の活躍ぶり、総会など各会議や催しものの状況・雰囲気などが伝わるようカラー写真を主に、1年間の活動内容を目で楽しむ会報を作成しました。

(2) アンケート調査の実施

高齢者の就業率の向上を図るため、全会員を対象にアンケート調査を実施しました。

また、お客様の満足度の向上に努めるため、任意に選んだ顧客100名を対象に顧客満足度アンケート調査を実施しました。

○総務委員会 (11月30日、1月29日)

(1) 組織体制の充実

①組織の編成

個人情報保護の観点から配布文書を郵送に切り替えたことにより、地域班の活動がなくなったことから関連する規程等の見直しを行いました。

②指定管理の受託

会員の自主的な活動を支援するための高齢者生きがい活動センターの施設管理を市から受け、効率的な指定管理運営に努めました。

(2) 会員の資質向上

会員やシルバー人材センターに対する期待と信頼性を向上させるため、会員視察研修会等(参加者22名)を開催し、会員自身の技術・能力の向上に取り組みました。

(3) 相談事業の実施

市内高齢者の方の「生きがいづくり」の一助として、雇用・就業に伴う様々な相談を常時施設内で行い、アドバイスをしました。

また、当センターに入会を希望される方を対象に、毎月2回(第2・第4水曜日)に説明会(延べ23回、107名参加)を開催しました。

○配分金検討特別委員会 (2月4日)

草刈り機による飛び石事故防止のため新たな機器を導入することになりました。それにより、作業時間が長くなり配分金に大きな影響があるため、草刈り班を中心に単価の見直しを検討しました。